

ロサンゼルス消防における INSARAG External Reclassification (IER) 報告

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程
INSARAG Training Working Group メンバー
沖田陽介



1. INSARAG External Classification/ Reclassification (IEC/R)について

INSARAG (International Search and Rescue Advisory Group : 国際搜索救助諮問グループ) は、1988年のアルメニア地震に派遣された国際搜索救助チームが、調整のとれていない行動をとるなどしてかえって被災地の負担となった経験から、国際搜索救助チーム間の連携や技術の向上等を目的に1991年に設立された。現在その事務局はUNOCHA(国連人道問題調整事務所)に置かれている。

INSARAGの主要な活動として、2005年から、各チームを「軽・中・重」の3段階に分類するIEC

(INSARAG External Classification : INSARAG 外部評価)が開始され、現在までに約30チームが中または重認定を受けている。日本の国際緊急援助隊救助チームも、2010年3月に実施されたIECで重認定を得た。東日本大震災においてもIEC認定を得たチームのいくつかは日本に派遣されており、今回紹介するロサンゼルス消防もそのひとつである(IEC全般または東日本大震災におけるIEC認定チームについては沖田(2011)を参照)。

IECはいったん認定を受けるとその認定が永遠に有効というものではなく、5年に一度再受検することが求められる。この場合はIER(INSARAG External Reclassification)と呼ばれ、各チームはIEC認定以降も常にその能力の維持が求められる。

IEC/R認定にあたっては、INSARAGに加盟する他の国際搜索救助チームから数名の評価員チームが生まれ、約130のチェックリスト項目について、受検チームが実施する36時間以上の演習等を中心に確認を行う。筆者は2012年5月17日から21日の日程

で実施されたロサンゼルス消防IERの評価員として派遣されたので、その概要を報告したい。東日本大震災でも活躍したロサンゼルス消防そしてその他の国際搜索救助チームが、平時からもこのように能力の維持を図っているということを紹介するものである。

2. ロサンゼルス消防における IER 報告

ロサンゼルス消防は、IEC開始後のかなり早い段階の2007年1月に、重チームとしては4番目の認定を受けていたが、2007年から5年が経過し、IERを受検することが必要となった。

IEC/Rでは、当該チームが国際派遣のために必要な体制を整えているかを確認するため、搜索救助技術以外にも、隊員の招集システム、平時における資機材のメンテナンス、登録隊員に対する訓練等について、関連書類や倉庫の視察等で確認を行う。その後最低36時間の演習を実施するが、この演習では、災害の発生から出発空港までの動員、通関に必要な書類の作成、活動本部の設置、チェックリストの全ての項目に



写真1 36時間演習は夜間も継続して実施される

ついて確認できるような捜索救助活動の実施、他のチームとの調整等について、評価員の前で実施していかなければならない。

各チームがチェックリストに示された最低限の基準を満たすことで、派遣時に被災国の負担となることを避ける、というのが IEC/R の狙いではあるが、特に重認定を得るようなチームについては、各チームの調整活動、つまり捜索救助活動以外の部分での貢献も強く求められている。例えば、INSARAG では最初に被災国に到着したチームが空港に RDC (Reception Departure Centre) を設置し、後から到着するチームの登録やブリーフィングを実施することが決められているが、今回の演習でもロサンゼルス消防は被災国に最初に到着した国際チームというシナリオのもとで RDC を設置。後続する英国やオーストラリアチームのメンバーを演じた者は、実際にそれぞれの国からこの演習のために派遣されるなど、本格的な演習内容であった。



写真2 RDCと到着した各国チーム

ロサンゼルス消防は、チェックリストのほとんどについて特に問題なく基準を満たし、引き続き重認定を継続することに成功した。これは今回の IER 演習のみでなく、2007年の認定以降の彼らの継続した能力の維持と、ハイチ地震、ニュージーランド南島地震、そして東日本大震災等における活動が評価されたものでもある。

今回の評価員チームはオランダ2(チームリーダーを含む)、英国 IRO (International Rescue Dog

Organization) 1、スイス1、ロシア1、オーストラリア2、日本1の計8人と、これに UNOCHA 事務局の1人が加わった。それぞれマネジメント、捜索、救助、医療、ロジスティックの分野を分かれて担当し、筆者はロジスティックを担当した。

IEC/R は UNOCHA からの一方的な試験ではない。評価は INSARAG コミュニティ内の相互チェックであり、IEC/R それ自体がチーム間の経験共有、学び合い、能力向上のプロセスでもある。評価員は地域間のバランスも考慮して選抜されており、アジア地域から筆者が評価員として参加したことそれ自体も意味を持つものであると考えている。



写真3 ロサンゼルス消防 IERでの評価員チーム(右端が筆者)

2010年に重認定を受けた日本の国際緊急援助隊救助チームも2015年に IER 受検が必要となる。IEC/R 認定がなくとも、被災国の同意さえあれば捜索救助チームを派遣することはできる。しかし同認定を得て世界標準の最低限の基準を満たしておくということは、国内のみでなく世界で活動を展開する捜索救助チームにとって必須の事項となりつつあり、現在多くの国のチームが自主的にこの認定を得ようと、その受検の順番を待っている状態である。

参考文献

沖田陽介(2011)「東北地方太平洋沖地震：国連災害評価調整チーム(UNDAC)の活動について」『自然災害科学』30(2): 279-287.